

## ◆TOPICS

# 食料生産地域再生のための 先端技術展開事業現地検討会

令和元年10月9日、10日の2日間にわたり、食料生産地域再生のための先端技術展開事業「原発事故からの復興のための放射性物質対策に関する実証研究（福島県・農業分野）」現地検討会を開催しました。県や国の研究機関、行政関係から総勢54名が参加しました。1日目は、南相馬市小高区小谷地区と川房地区と大熊町大川原地区の圃場を視察しました。小谷地区（写真1）では、作付けをするまでの除染後農地を省力的に維持管理する試験を視察しました。ここでは、牧草の一種であるレッドトップを用いた管理が実証されていましたが、この牧草

は、多年生であるため雑草化が懸念されること、斑点米カメムシが寄生する作物であるため、周辺水田への影響が懸念され、これらを解決することが課題であるとの説明がありました。川房地区（写真2）では、除染後農地への堆肥施用がダイズの生育と放射性セシウムの移行性に及ぼす影響について調査している様子を視察しました。また、堆肥施用がダイズの生育に効果的であるとの説明も受けました。一方で、川房地区のような営農再開地域では畜産の再開が遅れており、堆肥の確保が課題である旨の紹介がありました。大川原地区（写真3）では、今後の避難指示解除に向け、水稲およびダイズ栽培の安全性、生産性を評価するための実証試験を視察しました。2日目は、川俣町山木屋地区（写真4）で実施されている除染後畑地の地力回復に関する実証試験を視察しました。ここでは、地力回復の素となる有機物を確保するため、ヘアリーベッチというマメ科の植物を緑肥（栽培した植物を、収穫せずそのまますき込む）として利用した試験が実施されていました。試験では、種を蒔いたばかりだったため、少し芽を出した様子を観察することが出来ました。

（農業放射線研究センター 永田 修）



写真1



写真2



写真3



写真4